

JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2024 兵庫の受賞者へ賞状を授与

JICA が実施する「[国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト](#)」について、2024 年度は「未来の地球のために ～私たちにできること～」をテーマに作品を募集しました。この度、全国からの応募総数 36,202 作品(中学生の部:16,526 作品、高校生の部:19,676 作品)の中から、「国内機関長賞(JICA 関西所長賞)」を受賞した生徒の学校を JICA 関西が訪問し、賞状を授与します。訪問時には、世界に関心を寄せる受賞生徒と国際協力経験豊かな JICA 関西スタッフが、国際協力や SDGs 等について懇談予定です。

世界とのつながりがますます深まる現在、未来と地球のために、生徒たちが何を学び、どのような行動をしようとしているのか、ぜひ取材ください！

受賞生徒、学校教諭、JICA 関西スタッフへのインタビューが可能です。

【日程】 2 月 19 日(水)14:00～ (30 分程度)

学校名	賞	学年	受賞作品名	学校所在地
独立行政法人 国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校	国内機関長賞 特別学校賞(※)	1	未来につながる循環	明石市魚住町 西岡679-3

(※)5 年以上連続で学校賞(60 作品以上または全校生徒の 3 割以上の応募があった学校)を受賞した学校が対象

【日程】 3 月 7 日(金)12:00～ (30 分程度)

学校名	賞	学年	受賞作品名	学校所在地
松蔭中学校	国内機関長賞	1	「地球環境と私の好きを求めて」	神戸市灘区青 谷町3-4-47

取材希望の場合は下記連絡先まで事前にご連絡ください。

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 関西 市民参加協力課 浅田 瑠理 TEL:078-261-0384 E-mail:Asada.Ruri@jica.go.jp

<参 考>

【受賞作品概要】

●国内機関長賞 松蔭中学校 1年 タイトル:「地球環境と私の好きを求めて」

叔父が持参したお土産は、落花生とプラスチックフリーの柔軟剤。マイクロプラスチックが入っていないから体にも環境にも良いらしい。マイクロプラスチックの影響は調べたことがあり、ごみの分別や水筒を持ち歩くだけで環境に良いと思っていた私は、それだけでは足りないと知ってショックだった。一方、生活の中にはプラスチックが含まれるもので溢れている。環境を考え、今まで買っていた可愛い雑貨の購入や好きなファッションはできないだろうか。お土産の柔軟剤は可愛いデザインであった。地球環境について我慢しない選択肢が我が家にやってきた。今日も地球環境にやさしい自分の好きを探しに行く。

●国内機関長賞 独立行政法人国立高等専門学校機構 明石工業高等専門学校 1年

タイトル:未来につながる循環

私には高専で学ぶ情報技術を生かして、マレーシアや開発途上国の成長に貢献するという目標がある。私は中学時代に多民族国家マレーシアでの生活を経験し、民族間で教育と経済の格差があることを知った。中学2年生の時に国際交流会で現地の学校の生徒と交流した。そして相手の学校の「ICT 教育」は充実していないと思った。「ICT 教育」の導入によって、学ぶ時間や場所が関係なくなり、学習効率も良くなる。そのためのネットワーク回線や教育用デバイスの整備をしていく必要がある。これはマレーシアに限らず開発途上国にも同じ問題があるため、多くの収入を得て、生まれた子供に教育の機会を提供し、多くの収入を得て次の子供を成長させる未来のループを開発途上国で起こし、世界が一丸となって成長する事が重要と考える。世界に向けて視点を持ち、私達にできることを未来に向け一歩踏み出して考えてみる事が大切になると思う。そして私は「ICT 教育」を世界に普及させることで、マレーシアや開発途上国の発展に協力する努力をしていく。

【関西の応募(審査作品)総数】

都道府県	中学	高校	全体
滋賀県	1,001	324	1,325
京都府	479	981	1,460
大阪府	1,089	1,165	2,254
兵庫県	292	633	925
奈良県	396	7	403
和歌山県	89	17	106
計	3,346	3,127	6,473

賞の種類(中学生・高校生共通):

個人賞 最優秀賞 3名
(JICA理事長賞、外務大臣賞、文部科学大臣賞)
優秀賞 3名
審査員特別賞 4名
国際協力特別賞 10名
国内機関長賞 各都道府県1名以下
佳作 70名程度
【副賞】最優秀賞・優秀賞:海外研修
その他個人賞:フェアトレード商品
【参加賞】応募者全員(バナナペーパーステッカー)
学校賞 60作品以上または全校生徒の3割以上応募(副賞:表彰メダル)
特別学校賞 5年以上連続学校賞受賞(副賞:表彰楯)

【エッセイコンテストの概要】

次世代を担う中学生・高校生を対象に、エッセイを書くという行為を通じて、国際協力について考えてもらうきっかけを提供し、開発課題や国際協力への興味・関心を高めてもらうことを目的に実施。1962年度に「海外移住懸賞作文」として開始され、2024年度は高校生の部が63回目、中学生の部は29回目を迎える事業。

最終審査員長は中学生の部に尾木直樹氏(教育評論家・法政大学名誉教授)、高校生の部に星野知子氏(俳優・エッセイスト)を迎える。

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト HP (右 QRコード参照)

